

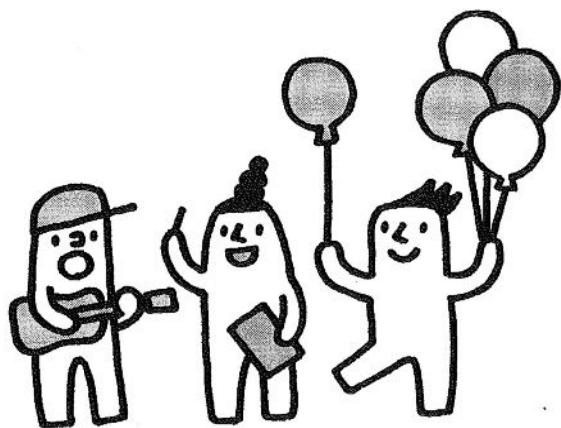
---

80期岡山労働学校 第7講義

# 社会と人間

—人間の本质を考える—

---



2010年11月25日

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」

## はじめに一人間の本質・・・？

私たちにとって、「社会で生きる」ことは、  
「たまたま」でもなければ、「一時的なこと」でもない。

必ず、つねに、もっぱら、**社会のなかで生きている。**



人間とは何か・・・

人は、ひとりでは生きていけない。  
「社会とは何か」を明らかにすれば、  
見えてくることがある。

# 1。では、社会とはなんだろうか



人間の社会（岡山市上空より）





他の生き物も群れるけど・・・



こちらは、生存を保つためにもっぱら本能的にそういう「ありかた」をしている。

だから、それは、生物学の研究対象となる。

そして、その「ありかた」は、基本的に大きくは変化しない。



# いっぽう、変化する人間社会・・・社会科学の対象

原始



封建制

**変化にも法則性がある。**  
(史的唯物論)

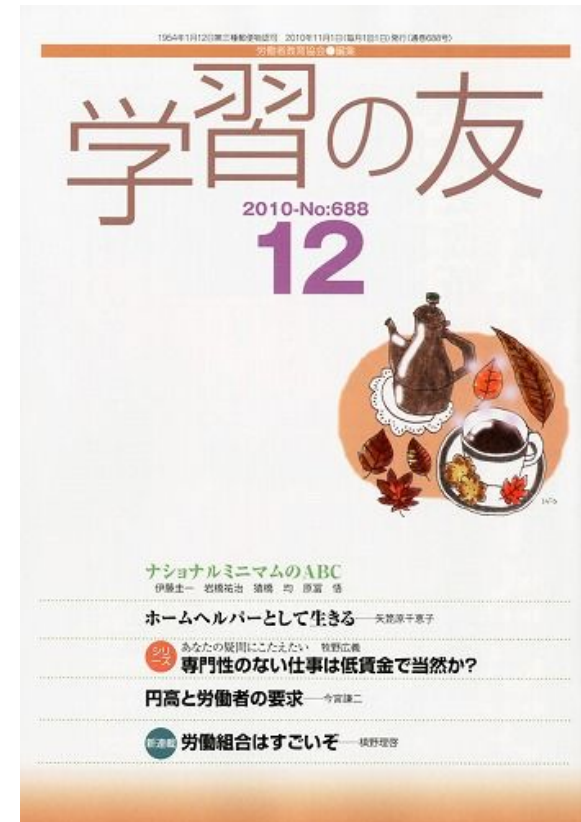


資本主義

# 社会のことを知ろうと思ったら・・・？ 新聞・テレビ・ラジオ・ネット



わたしもテレビぐ  
らいみるにゃん。



『学習の友』！



# 社会を形づくる3つの側面(おおまかな分類です)



経済

政治



文化・思想

# 社会の土台は、経済関係

「**生きること**」＝それに必要な衣食住  
他、必要な商品やサービス

すべて**労働によって生み出される。**

衣



食

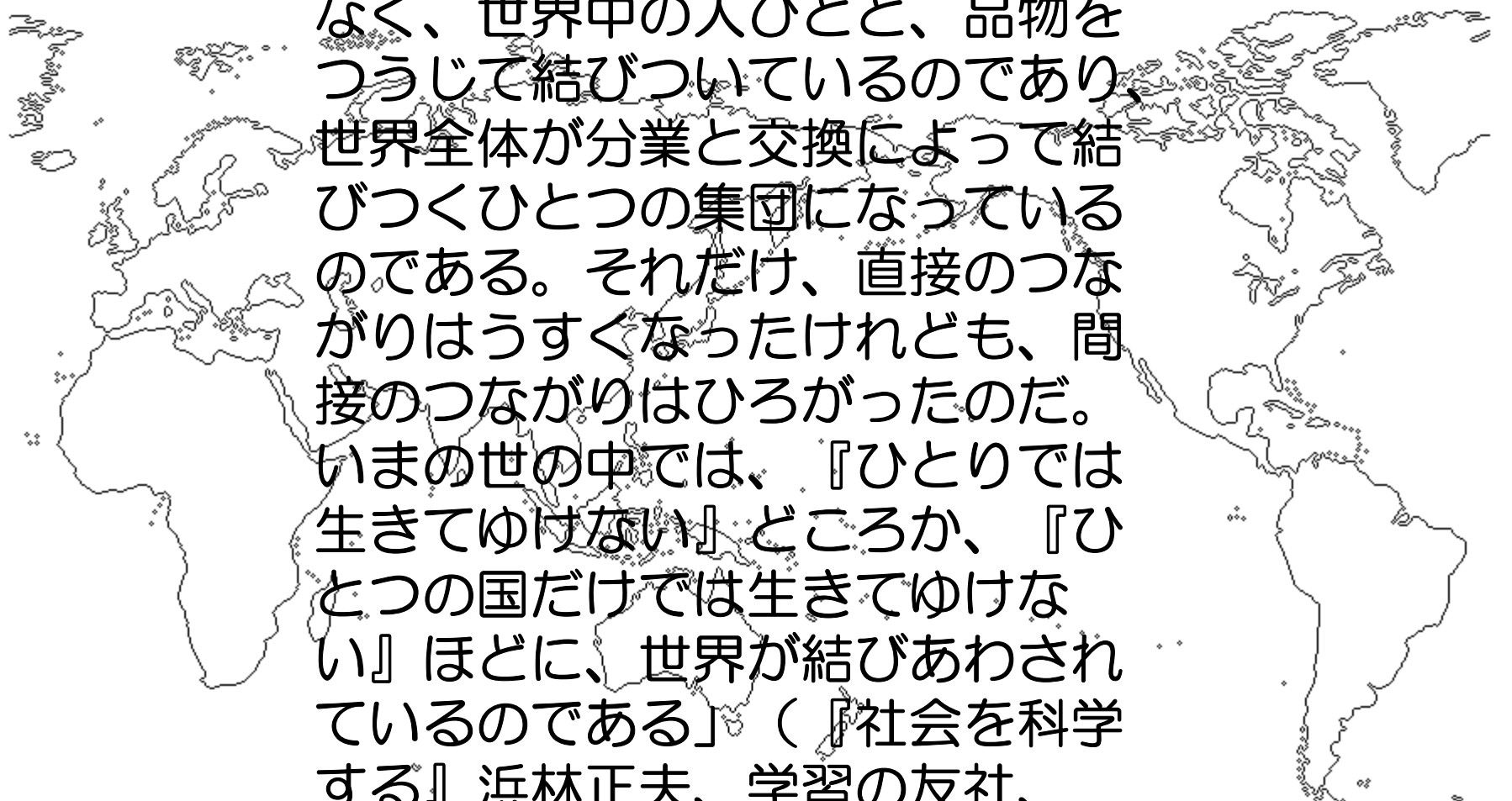


住



商品・サービス

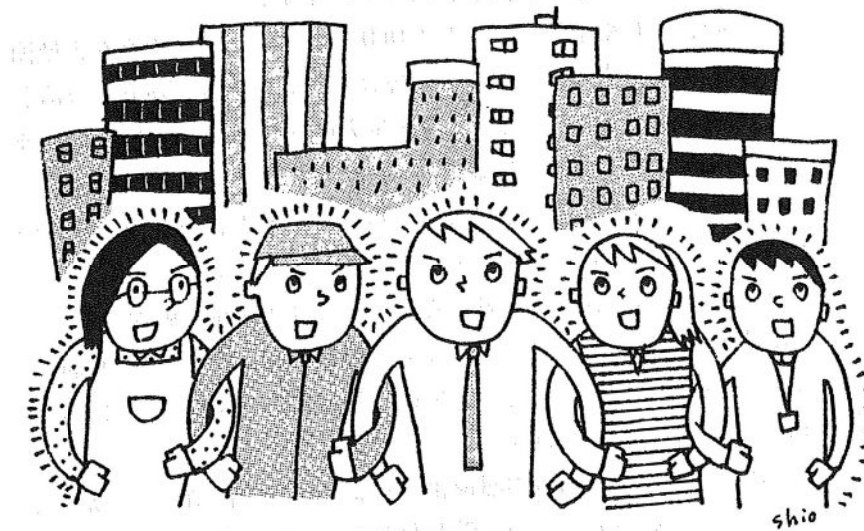




「私たちは日本中の人びとだけでなく、世界中の人びとと、品物をつうじて結びついているのであり、世界全体が分業と交換によって結びつくひとつの集団になっているのである。それだけ、直接のつながりはうすくなっただけれども、間接のつながりはひろがったのだ。いまの世の中では、『ひとりでは生きてゆけない』どころか、『ひとつの国だけでは生きてゆけない』ほどに、世界が結びあわされているのである」（『社会を科学する』浜林正夫、学習の友社、1985年）

## 2。人と人とのつながりの総体。

切れる「つながり」と、切れない「つながり」



生産関係(労働をつうじたつながり)は、本質的なもの



## 人間は、本質的に社会的存在



- ・どういう人(集団)のなかで、育てられたか
- ・どういう人(集団)のなかで、生きてきたか
- ・どういう人(集団)と出会い、影響を受けてきたか
- ・どういう社会のなかで、生きてきたか

ただし、どんな環境・境遇で育ったとしても、すべての人に、  
「人間らしく生きる権利」がある (by日本国憲法)

- ・偏愛マップーその人の生きてきた、つながりの世界。



「人間の本質は、個々の個人に内在するいかなる抽象物でもない。人間の本質は、その現実性においては、社会的関係の総体である」

（カール・マルクス「フョイエルバッハにかんすテーゼ」 6）

「人間は、自分一人では『自分』というものを育てることができず、人間になることはできない。人間仲間によって育てられるなかで、その仲間を（他人を）自分のなかにとりこんでいくにつれて、しだいに『自分』というものが育ってくる」

（高田求『新人正論ノート』新日本出版社）



◇人は、孤独では生きていけない

◇人から認められたい。

人の役に立つことは、本質的喜び。

◇「“助けて” といえない

～いま30代になにか」

(NHKクローズアップ現代)



人間の社会性剥奪の危機—自己責任論の影響大

### 3。社会科学を学べば、見えてくる。



「どう生きるのか」

深い関係！

と

「どんな社会で生きているのか」

しかし、いま、ここが見えなくさせられている。

自分を取りまく「大きな社会」とは、不変で、不透明で、不安定で、雑然としていて、自分を脅かすもの、という感覚の人が多いのではないか。



# 変えるもの、変わりうるものとしての「社会」。

\*大河ドラマ「龍馬伝」—身分制度への挑戦

\*韓国の軍事政権に挑んだ、金大中らの民主化運動。

\*人種差別をのりこえる社会を夢見た・・・ネルソン・マンデラたち

人びとは、その時代の課題と向き合っ  
て生きてきた。あきらめなかった。

なぜか・・・それが人間だから。

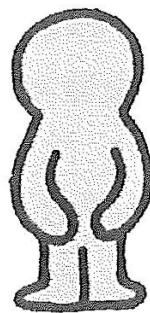
私たちが生きていく「時代」は、  
どんな社会になるのか（していくのか）。

（たとえば、長久の場合）

どんな日本・世界にしていくのか  
（21世紀はどんな時代になるのか）

2010 2020 2030 2040 2050 2060 2070 2080

あと70年…



長久死ぬ。  
（予定）

社会の土台は経済。私たちが生きているのは21世紀の  
高度に発達した資本主義社会の日本。

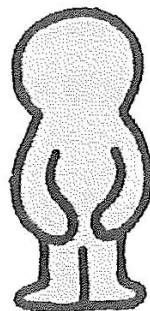
長時間労働

貧困と格差

不景気・円高...

無縁社会・孤独死

問題  
山積



セーフティネット  
のやぶれ

環境問題

就職難

ダメダメ社会だわな...



学べばみえてくる！



ものごとの  
大局をつか  
む力を。

## 岡山県学習協

### 新春学習会

1月7日（金）

18：30～

1月8日（土）

9：30～

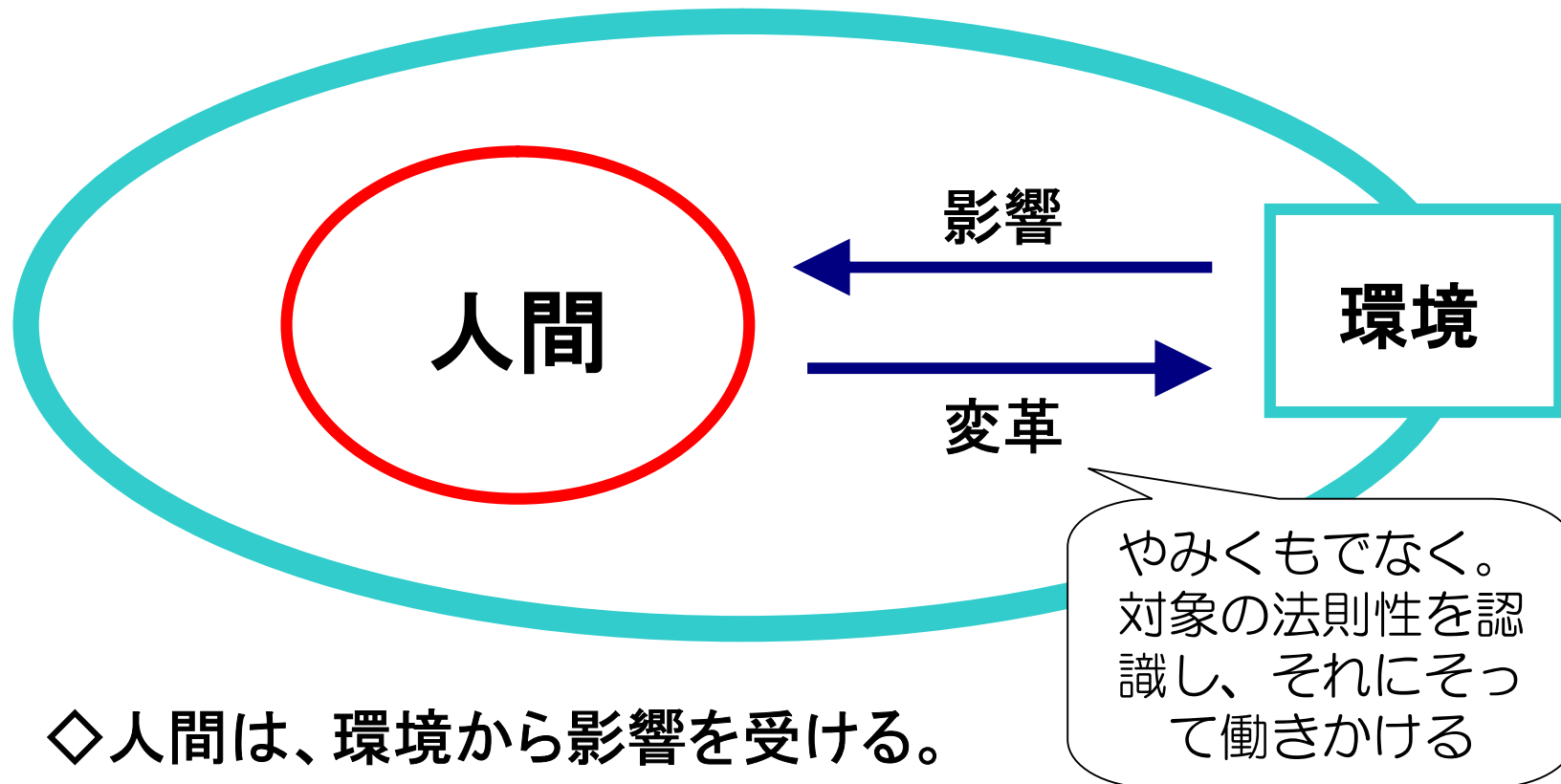
詳細はチラシを参照！



月刊誌『学習の友』

（1冊500円）

## 4。社会を変える、人間の働きかけ。



◇人間は、環境から影響を受ける。

◇人間は、環境を整え、変えることができる(目的意識)。

どんな環境のもとで、生きているのか？



**影響**

どんな労働環境で？

(労働時間、賃金、休日、人間関係)

どんな地域で？

(つながり、自然環境、地域性)

どんな教育・社会保障のなかで？

(教育のありかた、医療・介護・保育...)

どんな政治のなかで？

(税金の集め方・使い方、どんな法律をつくっているか)

どんな文化状況で？

(ゆとり、思想・文化、メディア)



人間は、**ひとり**で環境（社会）を変えられるか？

賃金上げてほしい！

休みをとらせて！

医療・福祉の充実を！

貧困をなくしてほしい！

国民のための政治を！

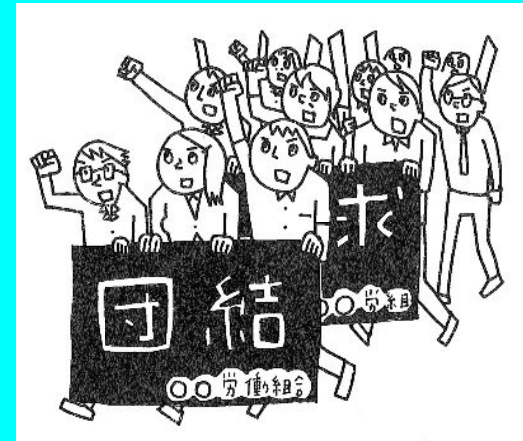
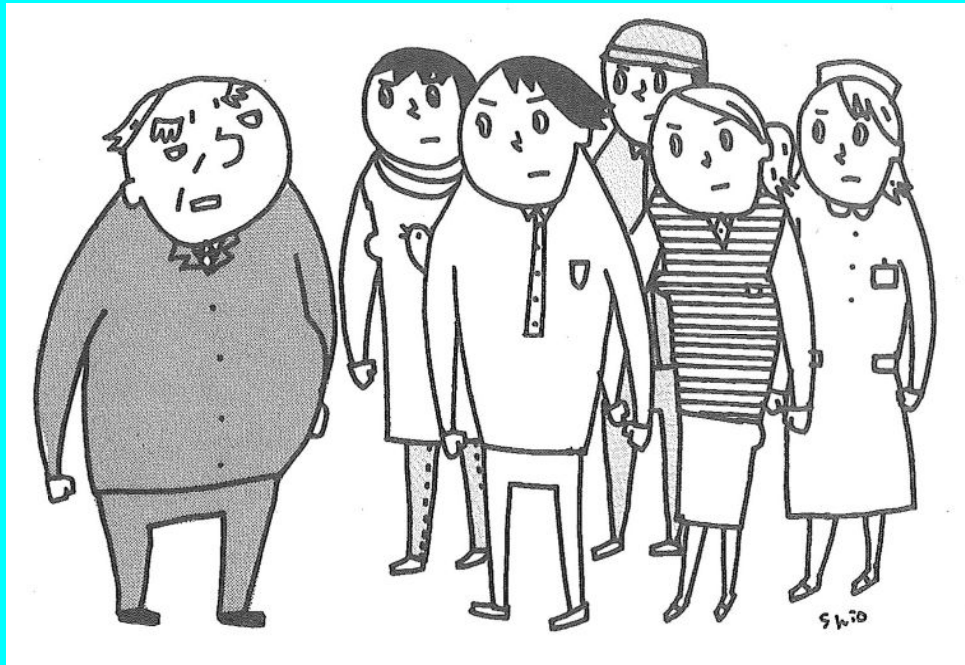


ひとりでは・・・

**無理です。**

集団の力で、環境を整えたり、変えていく。

**変革！**



**知を力に。**

# 私たちが、「集まること」の意義



## 集まること自体が困難だけど...

- \*痛みを共有する。交流と連帯が生まれる。
- \*問題を理解し、解決の道筋を見つける
- \*人間らしさ、社会性を取り戻す場。

認めあい 気づきあい

高めあい 深めあい 学びあい



人間らしい連帯のなかで、個性が輝き、  
自分も仲間も豊かになってゆく。



- ◇学習運動との出会い（1994年5月—当時19歳）
  - \*第48期岡山労働学校「入門教室」のチラシを見て
  - \*そのころ、自分自身や社会への見方はどうだったか
  - \*労働学校に足を踏み入れて—さまざまな人との出会い
  - \*94年秋の49期「初級教室」で、科学的社会主義の理論に出会う
  - \*そのころの自分の変化を表現するピッタリの文章
 

「世界をあるがままのゆたかさでとらえうるような、そんな目を私たちはもちたい。ゆがんだ眼鏡は、世界をゆがんで見せる。私たちは、ちゃんとした眼鏡がほしい。哲学への要求がそこからはじまる。・・・ちゃんとした眼鏡をかけたことのある人は知っているよう、はじめてそれをかけたときのことを。それまで、木の葉はぼうっとかすんで見えていた。木とはそんなものだと思っていた。が、眼鏡をかけたとたんに、木の葉の一枚一枚が、したたる緑とあざやかな輪郭をもって目にとびこんできた。世界がそのあるがままの新鮮さで私たちに迫ってくる、そんな眼鏡を求めて、私たちは哲学にむかうのである」

（高田求『人間の未来への哲学』青木書店、1977年）
  - \*第50期岡山労働学校（95年5月）から労働学校の運営委員となる
  - \*その年の夏、「専従者にならないか」とお誘いを受ける
- ◇1998年4月—専従者として活動をはじめ。
- ◇人間は、無限に成長できる—自分自身の実感として
  - \*「あんなふうになりたい」と思える人（ロールモデル）との出会い
  - \*活動の中で出会ったステキな仲間たち。自分の役割を果たすなかで。

時間があれば、長久の話を少しだけ：